

日本では、歌は、古来重要なコミュニケーションのツールだったわけですが、ただやみくもに歌われていたわけではありません。そこには、謳われなければならない数々の意味が内包され、だからこそ歌は、深い文学性を抱え込みがちなのです。圧倒的なツールでありながら優れた文学である。こんな文学は世界中どこにもありません。

今回は、大河ドラマが女流文学者をテーマとしていますので、日本のある時代を圧倒的に支えた女房文学にスポットを当てて、「女房文学と女歌の系譜」をたどってみます。

講師 岩手県立大学研究・地域連携本部
特命教授 松本博明氏

- ① 10月25日(金) 10:00~12:00
- ② 10月26日(土) 10:00~12:00

万葉の女流歌人たち。神と交信する大事なツールであった「歌」は、多くの女性歌人を産んだ。万葉の時代、額田王、持統天皇、笠郎女、石川郎女、大伯皇女、大伴坂上郎女、奔放にかつ真摯に恋を読みつつ、その歌群には神への祈りが切実に読み込まれている。《①・②連続》

- ③ 11月8日(金) 10:00~12:00
- ④ 11月15日(金) 10:00~12:00

平安から室町時代にかけて、宮中で活躍した女流歌人と歌を紹介する。誰もが知る女性たちの、真実の心の思いと、巧妙なテクニック。赤染衛門、式子内親王を筆頭に多くの内親王たち、和泉式部、紫式部、清少納言らの女房たち、中務卿、宮内卿、藤原俊成の娘、菅原道綱の母。さらには小野小町、相模、伊勢、数え切れません。その中から優れた歌を鑑賞しましょう。女歌という新しい視点から、彼女たちの思いを感じてみましょう。時間があれば江戸期の女流歌人も触れます。《③・④連続》

- ⑤ 11月16日(土) 10:00~12:00

近・現代の女流歌人に触れます。しかし時間的制約から、代表格 与謝野晶子、そして河野裕子、俵万智、この三人に触れておきましょう。

折口信夫が読む女歌

― 女房文学と女歌の系譜 ―



応募方法は、
裏面を御覧ください。

会場	盛岡市中央公民館 大会議室 [11月16日のみ第3講義室]	
受講料	1,000円	
対象	盛岡市民	
定員	定員45名 *定員を超えた場合は、抽選で決定します。	
締切	令和6年10月11日(金)必着	
応募方法	1	下のFAX様式に必要事項を記入し、中央公民館【653-3505】に送信。 ※FAXを受信できる方のみ。
	2	往復ハガキに「講座名・住所・氏名・電話番号」を書き、中央公民館に郵送。 ※10月から郵便料金が値上がりします。返信用は新料金(85円)でお願いします!
	3	盛岡市中央公民館のメールアドレス【chuo.ph@city.morioka.iwate.jp】宛に必要事項「講座名・住所・氏名・電話番号」を入力して送信。
	4	盛岡市のホームページで「古典文学入門講座」を検索。 ページ下の申込フォームに移り、必要事項を入力して送信。
	5	右のQRコードを読み込み、 申込フォームに移り、 申込フォームに必要事項を入力して送信。



古典文学入門講座 FAX 専用申込用紙

※FAXでのお申し込みは、FAXを受信できる方に限ります。

「折口信夫が読む女歌－女房文学と女歌の系譜－」

氏名	ふりがな	_____	

住所	〒	_____	_____
		_____	_____
連絡先	自宅電話:	_____	携帯電話: _____
	FAX:	_____	※FAXでお申し込みの場合は FAX 番号を記入願います。
	メールアドレス	_____	※お持ちであれば記入願います。

10月11日(金)必着 で御応募ください。

※ 受付の漏れ等を防ぐため、ファックスでのお申し込みの場合は、
送信後に確認のお電話をくださるようお願いいたします。

応募先・お問い合わせ : **盛岡市中央公民館**
〒020-0013 盛岡市愛宕町14番1号 TEL:019-654-5366 FAX:019-653-3505
e-mail:chuo.ph@city.morioka.iwate.jp 休館日:月曜日(その日が祝日にあたるときはその翌日)